

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

○全国を100とした標準化得点で、【国語A】100【国語B】98【数学A】97【数学B】96を目標とする。

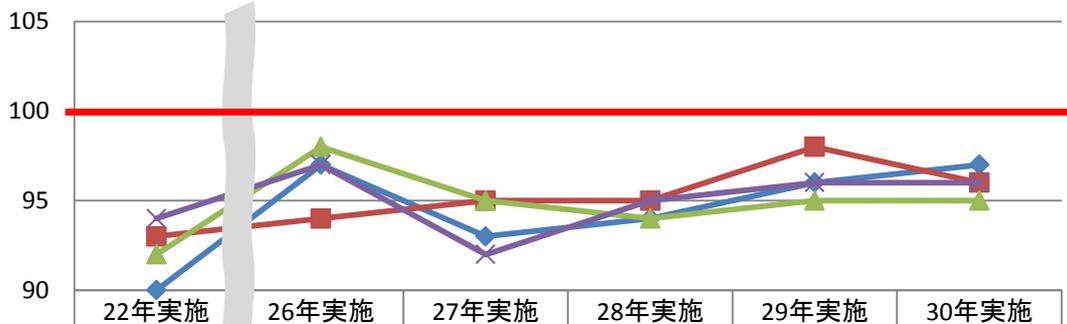
## 3.指標に向けての取組

- 定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを行い、基礎・基本の定着を図る。
- 自学ノートと課題プリント(曜日による教科1枚)を徹底し、家庭学習の定着を図る。
- 定期考査において、授業で学習した活用力を問う問題を出題する。
- 書く活動を積極的に取り入れ、見通しを持たせる授業づくりをする。
- 分割授業や個に応じた支援により、下位層の底上げを図る。

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	97	96	95	96
嘉麻市	98	98	97	96
全国	100	100	100	100

## 推移



◆ 国語A	90	97	93	94	96	97
■ 国語B	93	94	95	95	98	96
▲ 数学A	92	98	95	94	95	95
✕ 数学B	94	97	92	95	96	96

## 5.各学校における分析

○数学Bのみ指標に達することができたが、国語Aでは3ポイント、国語Bでは2ポイント、数学Aでは2ポイント指標に到達することができなかった。  
○定期考査前後のチャレンジタイムやフォローアップタイムを通して、分からないことを友達や先生に質問する生徒が増えてきた。  
○自学ノートや家庭学習の質が向上し、平素の授業や学びに対する意識も高まっている。  
○定期考査において授業で学習した活用力を問う問題を出題したり、書く活動を取り入れ見通しを持たせる授業づくりをしてきたが、依然として活用力を問うB問題における記述力の無回答率が高く、解答の質も低かった。  
○分割授業や個に応じた支援により、下位層の底上げを図ってきたが、下位層の得点率が低く、上位層の割合が少ない。

## 6.各学校における今後の取組

○習熟の程度に応じた指導や発展的な学習、補充的な学習等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導の充実とりわけ習熟度別分割授業を取り入れる。  
○基礎・基本の定着を図るために、定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを効率的に行う。  
○入試問題の傾向を分析し、活用力を問う授業づくりをし、定期考査でも積極的に出題する。  
○深い学びにつながるように、書く活動や交流活動を積極的に取り入れる。  
○家庭学習においても、知識問題と活用力を問う問題の双方を実施する。

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

[嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。]

嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。

短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。

高校入試問題等の定期考査への取り入れと生徒による授業評価を確実にいき、その結果、日常の授業がどのように変容し「かく活動」がどのように充実したのかを年間を通して検証する。

家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。

主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。

